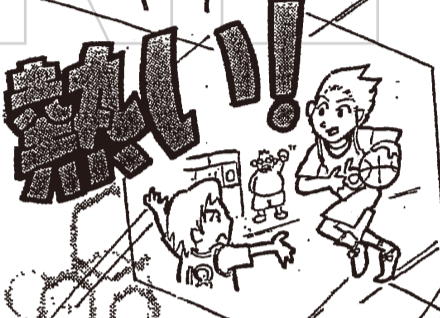


## 「暑い」だけが8月ではありません!



夏は暑い。それは当然のこと。  
炎天下で君の命が輝く。  
もちろん夏バテには注意して夏の暑さを  
思い切り楽しもう!



この熱いは君の心の甲にある。  
熱中して一つのことに励むこと。  
熱い思いで、今年の夏君にととの  
大きな収穫を勝ち取ろう!



この篤いは君の真心のこと。  
友情に篤いとは、友達思いの  
君のこと。この篤いを実行する  
のは難しいけれど人を思いやる  
心を育てよう!

夏休みの計画は勉強に進んでいますか? 当教室は君の夏休みを最後まで応援します。

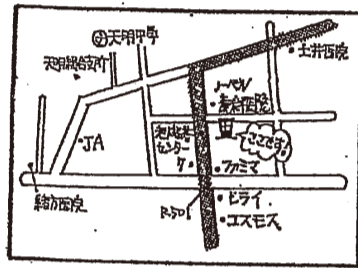


## 終わらない夏休みはない!

君の新学期を苦痛にしないために夏休みの一日一日を大切に生活しよう。

その昔、私にも経験があります。夏休みが終わりに近づく八月の末のあの落ち込んだ気持ち、夏休みが始まる時のあの希望に満ちた明るい気持ちはもうあかり消えて、日々笑顔がなくなっていくあの暗い気持ちは、おそらく多くの人が経験していることでしょう。しかしこの夏休みにもいざれ終わりが来ること夏休みが永遠に続かないこと

など初めから分かっていたはず。夏休みの終わり頃のあの暗い気持ちは、休みが終わるということよりもこれから始まる新学期への不安、苦痛にあります。つまり、新学期への準備不足、心を暗くするのです。夏休みに確実に学力が向上した人、勉強の方法に自信を持てるようになった人、全てにより積極的に取り組むようになった人には、希望の新学期はあっても苦痛の新学期ほどありません。希望の新学期を迎えるために、夏休みの時間を大切に大切に過ごすべきです。がんばろう夏休み!!



熊本市南区銭塘町2136-8

# 日進塾

096(223)3151

HP <http://www.nisshinjuku.com/>

日進塾で検索!

# 良い文章の書き方



### ① 句読点を入れる場所を考える

良い文章を書くには、まず句読点を正しく入れることが重要です。句読点の場所をしっかりと把握し、しっかりと句読点を入れることにより、良い文章が書けるようになります。句読点を入れる場所を間違えてしまうと、たいへん読みにくい文章になってしまいます。きちんと学ぶ自分のものにしていきましょう。句読点は文章の終わりに打ちます。これは当たり前のことです。句読点は文章を読みやすくするものです。また、誤読を防ぐのにも使えます。ただし、あまり打ちすぎると逆に文章が読みづらくなるので注意が必要です。

### ② 主張したいことははっきり書く

良い文章とは論理的に書かれた文章といわれています。論理というのはいわゆる筋道が立っていること。要するに、何を言いたいのか、何を言いたいのかが、代表的な例は、いろいろと書かれています。結論の筆者は何を言いたいのかわからないという文章です。まず何を言いたいのかわかりやすく提示します。普通は文章の最初が終わりの方に提示します。昔から文章の形式を起承転結といって結論は最後に書くといわれていますが、最初でもかまいません。とにかく主張したいことをはっきりさせます。

### ③ 一つの文章は短めにする。接続詞を多用しない

良い文章とはわかりやすい文章のことです。一つの文が長く、まして一つの文の中に「が」「しかし」「そして」などの接続詞が多用されているのは何を言っているのか非常にわかりづらくなります。一つの文はなるべく簡潔に書くように心がけることです。また、文と文をつなぐときにも、接続詞を必要以上に多用しないようにしましょう。

### ④ 使いなれた言葉を使う

難しい言葉を使えば良い文章が書けるといふことは全くありません。言葉はある意味道具と似たところがあります。使い慣れた言葉ほど味わい深いようになります。また、意味がわかっているつもり言葉でも、できるだけ辞書で調べようにしてほしいものです。

良い文章を書けるようになるためには訓練をしなければなりません。その訓練とは、良い文章といわれているものをたくさん読んで、そして実際に書いてみることです。書いたものを人に読んでもらってさらに上達します。